



# 会報



DISTRICT 253  
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

## 鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB  
OF TSURUOKA

田 植

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール  
例会日 毎週火曜日 12:30 - 13:30  
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内  
電話 0235 5775

会 長 上 野 三 郎  
幹 事 佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・テービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 957 号 1978.5.16 (火) (晴) No.44

### 本日のプログラム

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (手に手つないで)
3. ビジター・ゲスト紹介
4. 会 長 報 告
5. 幹 事 報 告
6. ゲスト・スピーチ (彼岸本来の意味について)

連台院住職 地主鉄明氏

7. 出 席 報 告
8. 点 鐘

## ■ ビジター紹介

本間留芳君—温海R.C  
加藤 広君(電気工事) 石寺龍象君(生命保険)  
半田勇三郎君(生命保険) 井上 彬君(建材販売) } 鶴岡西R.C  
半田茂弥君(石油配布)

## ■ スマイル

阿部 襄君 — 春の叙勲で勲三等旭日中授章を受けられました。

## ■ 会長報告

253地区 1978~1979 地区協議会が6/3~6/4に行なわれますが、出席義務者以外の会員も多数出席する様お願い致します。

## ■ 幹事報告

### 1. 例会日時、場所変更のお知らせ

#### (1) 八幡R.C

来る5月20日の例会は孟宗例会の為、下記の通り変更

と き 5月24日(水) P.M 6:30点鐘

と ころ 一条普門院

登録料 ¥ 3,000円

### 2. 会報到着

(イ) 石巻R.C (ロ) 寒河江R.C (ハ) 東京R.C

## ■ ゲスト・スピーチ (彼岸本来の意味について)

運台院住職 地主 鉄明氏

人々が求めてやまなかった、高度の文化、豊かな物質に恵まれた生活がある程度達成され、我々はその恩恵の中で生活を営んでおりますので、お互が豊かに心あたまる日常生活、幸福な社会生活が営まれているべきであります。現在私達の耳目に入る、人々の行動その姿は余りにも非人間的思考行動が多いように思われてならない。努力により開拓された現在社会が、非人間的行動の余りにも多く、社会問題としての病根となりつつあるとしましたら、今日程真の人間としての道、行動を反省しなければならぬ時期はないように思われます。豊かな物質合理的な機械化を求め余り、一番大切な人間として、人間らしく生きる道を見失っているように思われてならない。豊かな物質文明そのものを人間の真の幸福につなぐ努力、道を見出していくことが現代社会の大きな課題でありましょう。

高度の物質文明即人間の幸福という現代社会の中での成人者の考え方が青少

年の心を蝕ばんでいるように思われる。過般の学生の日頃の怨みの仕返しの為の真夜中の惨劇、又給食に毒薬を投入しての自己のうっぶん晴し等、物量機械化のみに傾倒している間に、心の空洞化、物欲の固まりとなり、自己求心の為には他を省りみない人間形成となることを恐れるものです。我々は日常どうしても足し算的考え方になります。人間である以上当然とされるかも知れません。仏教は引き算的考え方が強いと云われる方がありますが、それは引いて引いて零になるのではなく、人間自身本能的ともいえる煩悩、執着を逆に人間の良き価値感に切り換えて行くことであり、人の弱さ、悪い面を、煩悩を切り捨て、これを無くすることでなく逆に悪い面を良い面に換えていくことです。そのあり方を仏陀は転成という言葉をもって教えを示しておられます。人類の正しい発展に必要な転成を色々な角度から示しておられます。

本日は我々が馴れている彼岸の意味について考えてみたいと思います。

仏陀は3千年前に未来末世に人類は繁栄の世を迎えることであろう、その時人間としての真の繁栄、真の幸福を得る為の道を示しておられます。多くの教えの中で日常生活の基盤として6つの教えがあります。その6つの教えとは六波羅蜜、すなわち六度願行を実行するにあります。それは布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧の6つです。

第1の布施には自己のもっているもの、言葉でも、なんでも与える、社会奉仕の心で人々を道理と、事柄をわかまえしめ、親切をつくす法施と、自己のもっている物、身分の力相応に金品財物の有形のものを施す財施、力と安心を与えて苦悩煩悶の無いように人々の恐怖心を除いてやる無畏施の3つがあります。

第2の持戒はすべての規律を正して順守することであり、人間が人間として踏み行う真理・実相に合体させること、即ち身を修めることであります。

第3の忍辱とは、現世を堪忍の土と申しますが、すべて自己の思い通り、念願通りには、仲々いかぬものです。何事にも忍耐を持ち、いたずらに短慮な仕打ち瞋恚の炎を燃やすようなことなく、堪忍の徳を全うすることあります。

第4の精進とは、文字通り、くわしく進むことですが見えざる心で正しく考え、工夫し、両親より与えられた身体をもって、それぞれの職業を通し、物を生み出し、その物が人々に社会に役立っていく、物心一如の姿勢を造り出すことで、そこに仏の生命が宿されるということです。

第5の禪定は心静かに事物の真の姿を見窮めることの出来る行想で、散乱と妄動の心では、決して事物の本質を見窮めることは出来ません。

第6の智慧は、智情意の智にとどまるのでなく、学びと、身体と行ないが一体となり事物の真相を究明することの出来る、実行力を家庭に社会に顕していくことです。

以上が六波羅蜜即ち六度の大要ですが、この6つを日常生活の基盤として生活するところに、人間の踏むべき道と、生きる幸福を身につけることが出来るのであります。

春秋の彼岸会は単に季節の変わり目としての行事でなく、冬から春に、又夏から秋に入る時節に今一度自己反省をなし、この六度の行を自分に呼び戻し、実行する行事であり、父母祖先の霊に供養し追孝の行事も、豊かな心あたたかい自己身を具現することにあるのです。

彼岸とは、このように此岸（現在の苦悩の様相）より彼岸（解脱即ち人間らしい、心あたたまる社会）に自身を度脱させることであり、此岸より彼岸に涉

る舟又は橋が六度の願行になるわけです。

現代社会に忘れかけております六度の行が一人一人に自覚された時、人格完成の軌範となり、我々人間にとって豊かな物質生活を真の恩恵として蒙らしめるでありましょう。

彼岸の名称と字義の出所は経文の所説が根本となって起ったものでありますが、仏説梵網經のうちに「春分と秋分との両度には必ず七生の世の前から父母親族らを祭る」と説いてあります。

然し彼岸会という法会は日本において初めて行われ、聖徳太子が最初彼岸の中日に御先祖の御供養をなされたのが初まりといわれ、人皇45代聖武天皇の頃、南都に集まれる高僧の方々が、仏陀の教えを日常化の為、春秋2、8月が民家の農作業の手すきであるので、この好機を選んで仏參墓參をすすめられ、人道の実践、人間の幸福を自覚せしめられたという説もあり、推古朝の頃、聖徳太子によって端緒が開かれ、奈良朝に至って大成せられたものと思われます。今より9百年前人皇69代後朱雀天皇の時、彼岸会を1週間宮中においてお勤めになり、曆の上に彼岸を時節として記したともあります。

彼岸の真意はここにあり、物量化する現代社会に今一度相起すべき彼岸の行事とすべきものと存じます。(不備。時間内説明内容としておゆるし願います)

#### 質疑応答

如来とは……如実より到来せし者、即ち正しい覚り。真理をもって人々を済度する(守る)仏を号して如来と呼ぶ。

一般に、釈迦牟尼仏如来、阿弥陀如来の尊称。

菩薩とは……六波羅蜜を行じ、体得して大慈大悲心を起して、人々を利益し(人々の苦を救う)仏の法輪(教え)を現世の人々にひろめる人を菩薩と呼ぶ。

よく人々を助ける人の為になることを菩薩行という。

#### 出席報告

本日の出席	会員数	69名	欠席者	皆川君、阿部(公)君、安藤君、張君、早坂(源)君、早坂(徳)君、飯白君、石川君、玉城君、上林君、風間君、黒谷君、嶺岸君、三井(徹)君、森田君、中江君、斎藤(栄)君、板垣(広)君、佐藤(伊)、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、佐藤(正)君、鷺田君、内山君、鈴木(弥)君、高橋(良)君、手塚君、上野君、渡会君
	出席数	38名		
	出席率	55.07%		

前回の出席	前回出席率	75.36%	メイクアップ	阿部(襄) - 山形北 R.C 笹原君 - 仙台 R.C 佐藤(友)君 - 温海 R.C 半田君、五十嵐(三)君、黒谷君、高橋(耕)君、中江君、中野(清)君、高橋(正)君、金沢君 - 鶴岡西 R.C
	修正出席数	63名		
	確定出席率	91.30%		